

交換留学報告書

派遣先	
三重大学での所属学部・研究科	生物資源学研究科
学年(出発時)	1年
大学名	パジャジャラン大学
国	インドネシア
留学期間	2016年 9月 1日 ~ 2017年 2月 25日
派遣先での身分	交換留学生

一日の生活スケジュール(通学時)		
	記入欄	記入例
8:00	講義	
9:00	実験	授業
10:00	実験	授業
11:00	実験	図書館で自習
12:00	食堂で昼食	昼食
13:00	実験	
14:00	実験	授業
15:00	実験	授業
16:00	実験	
17:00	実験	
18:00	夕食	部活
19:00	帰宅	夕食
20:00	自習	友人と過ごす
21:00	自習	帰宅
22:00	自習	
23:00	就寝	
0:00		

研究内容

研究課題	ミバエの発生消長
世界で農作物に甚大な被害を及ぼしているミバエの野外での発生消長の調査を行ってきました。ミバエはマンゴーなどのトロピカルフルーツの果皮に産卵し、孵化した幼虫が内部を食い荒らします。産卵された農作物は商品価値を失ってしまいます。そこで、本研究では、ミバエの効果的な防除をはかるため野外における発生消長を調査しました。	

大学のサポート

チューターの有無	無
チューターのサポート内容	
語学コースの有無	無
コース名、料金、期間等	

生活

住居のタイプ	ホームステイ(3ヶ月)/マンション(3ヶ月)
住居の名前	
部屋タイプ	ホームステイ→1人部屋/マンション→1人部屋
ルームメイト(国籍)	ホームステイ→チェコ人1・ドイツ人1/マンション→なし
室内設備	ホームステイ→バストイレ/マンション→バストイレ
共用施設	ホームステイ→キッチン/マンション→なし
インターネット設備	ホームステイ→なし/マンション→あり(個人契約)
大学までの交通手段(交通機関、所要時間)	ホームステイ→徒歩・Ankot(乗り合いバス)1時間/マンション→徒歩30分
アルバイトの有無	無
アルバイトの内容	

渡航	
Visaの種類	一時滞在Visa
Visa申請先	在大阪インドネシア領事館
Visa取得にかかった日数	約3か月
Visa取得にかかった費用	(交通費含まない)5650円
Visa取得方法、提出書類等	領事館に領事館からの推薦状取得に必要な書類を提出し領事館のからの推薦書を取得する(不備がなければ1週間程度で発行・郵送可)。領事館からの推薦書を含む推薦状取得に必要な書類一式をインドネシア(受入先)へ郵送する。インドネシア(受入先)が文部科学省と入国管理局に留学許可と滞在許可を申請し、発行されたら、受入先から受け取る。一時滞在許可に必要な書類を揃え領事館にて申請する。(不備がなければ翌日発行・郵送可)
留学先大学の最寄り空港までの経路	バンドン空港からパジャジャラン大学までは車で2時間程度
渡航費用	152,475円
ピックアップサービスの有無	有(お金は払っていないが迎えに来てくれた)

帰国後	
留年や卒業の遅れの有無	1年遅れあり
有る場合、その理由	単位取得が不可能のため
就職活動開始時期	2018年予定
帰国後の進路	進級

留学にかかった費用	
現地通貨＝日本円(約)	10000ルピア＝約110円
保険料(海外旅行保険、国民健康保険等)	学研災付帯 海外留学保険 57430円
学費(教科書代や語学コース授業料等)	無
宿舍費(月額)	ホームステイ→無料/マンション→2300000ルピア
光熱費(月額)	ホームステイ→無料/マンション→400000ルピア
食費(月額)	ホームステイ→1000000ルピア/マンション→3000000ルピア
その他	旅行5000000ルピア
留学期間中にかかった費用の合計	333530円 (25100000ルピア)

感想等(※800字以上で語学勉強の成果についての内容も含め、ご記入ください。)

インドネシア・パジャジャラン大学で大きく2つのことを行ってきました。研究と講義の受講です。研究では、自分の思ったように進めることが難しく、何度も話し合い、研究を進めました。また、途上国ではありますが大学なので、研究するための設備は整っていると思っていましたが、予想外に乏しかったです。顕微鏡は壊れていました。日本でなら、生物系の研究室になら一台はあろう写真が撮れる顕微鏡も壊れていました。しかし、「ものがないからできない」は通用しません。友達に相談して、手伝ってもらい、研究をできる環境をなにもないところから整えたことで、なにもない環境のなかでも研究する(自分のしたいことをする)根性を身につけることができましたと思います。

一方、講義は、Plant protection, Crop and pest interaction, Insect taxonomy and identification の3つ受講しました。留学当初に食中毒になって、1週間くらい身動きが取れなくなり、自宅休養を強いられました。その期間に履修登録期間が終了して、講義の登録ができなくなってしまいました。しかし、先生に直接交渉し、履修を認めてもらい、受講することができました。日本では、大学院では講義の受講よりも研究に割く時間の方が多いです。インドネシアでは、研究よりも講義にあたる時間の方が多印象があります。日本だったら、1つの授業で1回プレゼンしたら終わりなんてことも珍しくないです。私が受講した講義の1つ、Plant protectionの内容は2人の先生が担当し、それぞれからの講義と課題が言い渡されました。それぞれから2回のプレゼンとテストが課されました。もちろん使用言語は英語です。英語での講義が私だけのために行われていたため、講義日程が長期休暇中に行われる集中講義のように集中していました。短い日程の中でこれらをこなすためにお正月もなく、外では新年の花火が打ちあがる中、1人パソコンに向かい必死で勉強しました。この時は、すこし寂しかったですが、この期間に植物防除に関する知識、英語力を手に入れることができました。

念願叶って行くことができた留学、時間もお金もたくさんかけてする留学です。そう簡単にあきらめたくない。「あともうちょっと」と自分に言い聞かせ、あの手この手を使って、今自分ができることは何かと問い続け、どうしたら友達にも先生にも認めてもらえるか考え行動し続けました。文化もわからない、家族も友達も先生もいない、日本語も常識も通じない、「わからない・いない・通じない」環境でまずは生きていかなければならない、研究も勉強もしたいなかで、主体的に行動し自分がどこまで通用するかを試すことができた

今後留学する人へのアドバイス

前もって歯科での検診をお勧めします。

もし治療する場合、先進国では、日本と往復する金額が必要だそうです。途上国では抜かれます。抜歯されます。私自身、虫歯ができたことなかったのですが、食生活が劇的に変わったためか、虫歯ができてしまいました。歯科にいくと抜歯されると聞いていたので、行くのを躊躇っていました。幸い、留学期間中に痛み出すことはなかったのですが日本に帰ってから、歯科へ1ヶ月ほど通院しました。歯は一生ものですし、痛み出すと尋常じゃないそうです。ぜひ、歯を含めた身体のチェックをしてから留学に出発して下さい。

報告書記入日

2017年3月21日